

授業者

## 1 主題名

【はたらくときには】 小学校 C - (13) 勤労・公共の精神

## 2 ねらいと教材

### (1) ねらい

自分の係の仕事について悩む主人公の姿を通して、自分の生活を振り返り、係や当番の仕事をするのはなぜ大切かについて、多面的・多角的に考えさせ、集団の一員として集団生活の向上につながる活動に取り組み、積極的にみんなのために働こうとする実践意欲と態度を育てる。

### (2) 教材

「係の仕事に取り組むときに」(道徳3 きみがいちばんひかるとき 光村図書)

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本学習は学習指導要領の内容項目C-(13)勤労・公共の精神を受けて設定している。「働くこと」は、人間社会を成立させるうえで基本となるものである。子どもたちにとって学校や学級は「小さな社会」ということができ、その中で「働くこと」で得られる達成感や周囲からの感謝は、働こうとする意欲を高める。しかし、社会環境や産業構造の変化に伴い、働き方が一様でなくなった現代においては、働くことに対する将来の展望がもちにくいという傾向もある。また、価値観が多様化している今日、勤労観や職業観は一律でないことから、一人一人が働くことの意義や目的を探求し、みんなのために働くことの意義や働くことによさについて、考えを深めていくことが大切である。集団の一員として、自分の役割を積極的に果たそうとする態度の育成につなげていきたい。

### (2) 児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童はこれまでに「働くことによさを知り、みんなのために働くこと」について学習してきたおり、みんなのために働くことの楽しさや喜びを感じ取れるようになってきている。しかし、その一方で、働くことを負担に感じたり、面倒に思ったりする様子も見られる。一学期の当番活動や係活動では、自分の仕事を忘れてしまったり、友達に仕事を任せて遊びに行ってしまうたりしてトラブルになることもあった。その理由として、「なぜ当番や係の仕事をするのか」という働くことの意味や目的について児童一人一人が十分に考えることができていなかったことが考えられる。

そこで本学習を通して、学校生活の中で集団の一員として自分にできることについて考え仕事を見つけたり、自分の仕事が集団生活の向上につながるような役に立つものであるということを感じたりし、仕事をすることの大切さを理解できるようにしたい。また、自分の役

割を果たすことの気持ちのよさややりがいを感じることで、力を合わせて進んでみんなのために働こうとする意欲や態度を育みたい。

### (3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材は、児童にとって身近な係活動を題材にしており、「遊び係」としてクラスの友達のさまざまな意見に困惑する主人公の姿が描かれている。

本学級は係活動が活発に行われているとは言い難い現状であることから、本教材を通して、係の仕事に対して悩む主人公の気持ちに共感させるとともに、その主人公にどのように声をかけるかを話し合う活動を通して、仕事の意義や大切さについて考えを深めさせたい。グループでの話し合い活動や、自分を振り返る活動を取り入れながら、みんなのために働くことについての考えを広げたり深めたりして、実際の係の仕事や当番の仕事への取り組みに活かしていきたい。

## 4 学習指導過程

学習過程	学習活動(○発問・予想される児童の反応)	指導上の留意事項
【導入】 (3分)	1 自分の生活を振り返る。 ○係の仕事が楽しいですか。それとも大変ですか。 ・楽しい・大変なこともある・どちらもある	・資料への意識付けを図る。
【展開】 課題把握 見通し 自力解決 (5分)	2 「係の仕事に取り組む時に」を読む。 ○真由さんは何係ですか。 ○真由さんは遊び係のどんなところが楽しいと思っていましたか。 ○真由さんはなぜ「面倒だな」と思うことがあるのですか。 3 自分の係の仕事で大変だったことや悩んだことを思い起こす。 ○真由さんのように自分の係の仕事で大変だったことや悩んだことはありますか。それはどんなときですか。 ・休み時間の遊ぶ時間がほかの人より少なくなる。 ・なかなか話し合いが進まなくてめんどくさくなることもある。 ・自分の仕事を忘れてしまうことがある。 ・みんな遊びでみんなが楽しいと思う遊びになるか不安。 4 課題を確認する。 自分が係の仕事をする時に、大事にしたいことはどんなことだろう。 ≪自力解決(5分)・グループ学習(10分)・ 全体学習(10分)・振り返り(8分)≫	・挿絵を使って、教材文の内容を確認し、当初は係の仕事を楽しんでいた真由の姿と面倒だなと感じている真由の姿を押しえておく。 ・自分の経験に返って考えることができるようにする。
グループ学習(10分)	5課題を解決する。 ○「自分の係の仕事をする時に大事にしたいこと」と、その理由を黄色の短冊に書きましょう。 ・「レク係」の仕事では、みんなが朝から楽しくなるようなクイズを考えて、笑顔になってもらうことを大事にしています。 ・「筆箱チェック係」では、筆箱の中身をそろえて、みんなが進んで学習ができるようにすることを大事にしています。 ・「大会係」では、みんな遊び大会などをしてみんなに喜んでもらえることを大事にしています。 ・「なかよし係」では、ポスターなどを作って、ケンカやちくちく言葉が少なくなるようにすることを大事にしています。 ・「体育係」では、みんなが体育を楽しく活動できるようにしたり、運	・児童自身の係の仕事をつ題材として、普段自分がどんな思いで仕事に臨んでいるかを意識させる。 ・グループで意見や考えを伝え合い、その後、全体で共有することで、仕事の内容が違ってても、それぞれが自分

言語わざ:「自分だったら・・・」という考えで話す。

<p>全体学習 (10分)</p>	<p>動会に向けて協力して頑張れるようにしたりすることを大事にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「丸つけ係」は、先生の代わりに丸を付けたり、間違えているところを教えたりして、みんなが「おちドリル」を進めていけるようにすることを大事にしています。</li> </ul> <p>○自分の考えをグループで発表しましょう。 ○他のグループの考えを見に行きましょう。</p>	<p>の仕事に責任ややりがいをもっていたり、仕事をすることに喜びを感じていたりすることを捉えさせる。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>内容</b> 「自分の係の仕事をする時に大事にしたいこと」を話し合う。</p> <p><b>方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 黄色の短冊に自分の考えを書く。</li> <li>② 黄色の短冊を貼りながら、自分の考えを伝え合う。(対話)</li> <li>③ 各グループの考えを見て回る。(ぐるぐるタイム)</li> <li>④ 自分の考えがかわったことや深まったことをピンクの短冊に書く。</li> </ol> </div>			
<p>5 全体で意見や考えを伝え合う。</p> <p>○友達のことを見て、自分の考えが変わったことや深まったことを赤い短冊に書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの係も「みんなのために」を大事にしている。</li> <li>・どの係も楽しいクラスにすることを大事にしている。</li> <li>・みんなのためにすることも大事だけど、自分も楽しく係の仕事をしている。</li> <li>・自分の係の仕事を頑張ることは気持ちがいい。</li> <li>・人の役に立つことが嬉しい。</li> </ul> <p>○集平が真由にかけた言葉を考え発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが喜んでくれたり、ありがとうと言ってくれたりすると、「やってよかった」と思えるから。</li> <li>・みんなのために働く、みんなも自分も嬉しい気持ちになるから。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなのために」働くという気持ちの他に係の仕事をする達成感ややりがいを感じていることに気付かせる。</li> <li>・もう一度、集平の言葉を考えさせることで、導入時との考えや気持ちの変化を見取る。</li> </ul>
<p>【終末】 ふりかえり(8分)</p>	<p>8 本時の学習をふり返る。</p> <p>○今日の学習をふり返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は、みんなが楽しんでくれると嬉しいから係の仕事をしていると考えていたけど、友達のことを聞いて、それだけではなく、みんなが喜んでくれると自分もうれしいから、自分の係の仕事を頑張りたいと思った。</li> <li>・大変なことや面倒なことがあっても、みんなのために進んで仕事をしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を通して、自分の考えが変わったことや深まったこと、また自分の係の仕事をする時にこれからどうするかを振り返らせる。</li> </ul>	

【評価】

【自己を見つめる】

係の仕事に自分がどのように取り組んでいるかを振り返っている。

【多面的・多角的に考える】

係の仕事に前向きに取り組むことについて、その難しさや大切さの両面から考え、仕事の意義について考えを深めている。

【道徳的価値の理解を基に自己の生き方について考えを深める】

大変なことや面倒なことがあっても、自分の役割を果たしみんなのために進んで働くことの大切さに気付いている。

5 他の教育活動との関連

指導の場	活動名（教材名）	道徳観点から見たねらい
学級活動	学級力をアップさせよう	自分達で学級の強みや課題について把握し、課題を克服するための取り組みを話し合うことで、学級をよりよくしていこうとする意欲や態度を育てる。
道徳	マリーゴールド	保育園で花を育てる仕事に取り組む主人公が変化していく姿を通して、みんなと力を合わせて働くことのよさについて考えさせ、働くことの負担や面倒を乗り越えて、自分の役割を果たし、進んで働こうとする心情を育てる。
社会	働く人と私たちの暮らし	地域には自分たちの生活を支えてくれている様々な仕事があることを知り、働く人々の苦労や工夫、やりがいについて考えを深めていくことで、働くことの意義や目的について考えようとする意欲や態度を育てる。

6 板書計画

③

真由さんの大へんな気持ちはよく分かるよ。ぼくは、みんながよろこんでくれたり、ありがたうと言ってくれたりすると、「やってよかった」と思える。みんなのために働くこと、みんなも自分もうれしい気持ちになるから、遊び係の仕事は大切だと思うよ。

④

自分の係の仕事をする時には、どんなことを大事にするとよいのだろう。

挿絵①  
黒板の前で悩む真由

- ・面白い
- ・大へんだ
- ・楽しい
- ・みんなのえがお

真由

遊び係

係の仕事に取り組むときに

○係の仕事で大へんだったこと

- ・休み時間少なくなる。
- ・仕事を忘れてしまう。
- ・ちゃんとやってくれない。
- ・話合いが進まない。
- ・めんどくさくなることもある。

挿絵②  
集平

みんなのえがおを見るとうれしい

気持ちがいい

係の仕事が楽しい

役に立ててうれしい

**内容**  
「自分の係の仕事をする時に大事にしたいこと」を話し合う。

**方法**

- ① 黄色の短冊に自分の考えを書く。
- ② 黄色の短冊を貼りながら、自分の考えを伝え合う。(対話)
- ③ 各グループの考えを見て回る。(ぐるぐるタイム)
- ④ 自分の考えがかわったことや深まったことをピンクの短冊に書く。

7 授業後の成果と課題（レポート）

<p>授業参観者</p>	<p>中部教育事務所指導主事（学校支援訪問と兼ねて実施）          学校長・教頭他全教員</p>
<p>助言者</p>	<p>指導主事</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5つのグループに分けて、ゼミ方式で話し合い活動を行うことで、全体の場では発表できない児童も、発言することができた。</li> <li>・自分の係の仕事（特別活動）とつなげたことで、自己を振り返り、自分事として考えることができていた。</li> <li>・自分の考えと友達のを比べ、黄色の付箋からピンクの付箋へと自分の考えを深めていくことができていた。</li> <li>・児童の発言から「休み時間が少なくなる」や、「遊びをまとめるのが大変」など、係の仕事に対する本音が出てきた。</li> <li>・「みんなのためにはたらく」という考えから、「みんなのためにはたらくことは気持ちがいい」や「みんなのためにはたらくことは、自分のためにもなる」という考えに広げることができた。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えたいことであった「大事にしたいこと」という文言があいまいであり、付箋に書く内容が、児童によって異なっていた。</li> <li>・本時のねらいであった「係の仕事をするにはなぜ大切かについて多面的・多角的に考えさせ、積極的にみんなのために働こうとする実践意欲と態度」にあと一步せまる場面がなかった。              →考えたいことを「係の仕事をするには、なぜ大切なのか」にする。</li> <li>・付箋を使って個人の思考を深めていったことはよかったが、全員の付箋が黒板に出た際、構造的に整理することが不十分であり、学級全体での思考の深まりが浅くなってしまった。→思考ツールで整理，2グループに分ける</li> <li>・児童が自身の経験を思い出したり話したりするきっかけになる教師の「問い返し」がなかった。</li> <li>・児童らが自ら対話し議論し合う道徳の授業にはなっていなかった。              →児童同士で「問い返し」をし合うことができる授業づくり・学級づくり</li> </ul>
<p>所感</p>	<p>本授業で挙げられた課題を解決していくために、特に以下の3点を実践していきたい。1つ目は、課題の設定である。目の前の子どもたちの実態に合わせて、「何を考え、深めさせたいか」という柱を立て、道徳的価値に対する児童の本音（人間らしさ）を十分に引き出すことで児童らが必然性をもって課題について「考えたい」「深めたい」と思えるようにしたい。</p> <p>2つ目は、評価の視点（ねらいを達成した子どもの姿や反応）の明確さである。「自己を振り返っている」とは、「多面的・多角的に考える」とはどのような姿かを具体的に設定し、そこにせまる学習形態や発問を考えていきたい。</p> <p>3つ目は、児童が自分のことを語り、深い学びにつながるような「問い返し」や「ゆきぶり」である。教師にしかできない問い返しやゆきぶりの技術を磨くことに加え、児童同士が「問い」合い、議論することができる支援・指導（言語わぎ・話し合いの視点を示す等）を行っていきたい。</p> <p>道徳の授業を通して、児童のこれまでの経験や考えを価値づけしていきながら、お互いの成長や存在を認め合える集団作り、また、自己を振り返り、自分の生き方を考えることができる心情や意欲や態度を育てていきたい。</p>

板書写真

